

日交研シリーズ A-816

令和2年度自主研究プロジェクト

都市交通における河川舟運の活用と課題 ～ 環境影響の観点から

刊行：2021年8月

都市交通における河川の活用と課題  
a research on use of river in urban transportation

主査：庭田 文近（城西大学現代政策学部准教授）

NIWATA, Fumichika

要 旨

東京都の朝潮運河や新潟市の信濃川の通勤時水上バス利用の社会実験や、大阪市の尻無川の舟運事業計画など、昨今都市の陸上交通混雑の緩和やウォーターフロントの魅力創造の観点から河川舟運の活用が模索されている。そこで、本研究では河川舟運の都市交通としての活用に関して、その利点を評価するとともに、舟運の運行に際して生じるであろう課題について、特に環境経済学の視点から検討を加えた。

本冊子は、その研究プロジェクト「都市交通における河川舟運の活用と課題 ～ 環境影響の観点から」の成果である。

第1章「水資源の保全と活用」は、河川の水質とその改善について、欧州連合の水枠組み指令（2000年制定）に基づいた河川改修を概観するとともに、日本の水資源とその活用として、舟運の可能性について論じる。第2章「河川舟運の費用便益分析 — 統計的生命価値を中心に」では、欧州委員会が2011年交通白書で指摘している内陸水運の高い安全性という利点に着目し、河川舟運の便益として統計的生命価値の理論とその評価方法に関する議論を概観する。第3章「東京都における河川舟運の政策過程」は、東京都が河川舟運の活用に着目してきた政策過程について、政治学の視点から考察する。

キーワード：河川舟運、水質、統計的生命価値、費用便益分析、政策過程

Keywords : River Transportation, Water Quality, Value of Statistical Life, Cost Benefit Analysis, Policy Process